慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	国際化時代の日本企業の成長戦略
Sub Title	
Author	牧野成史(Makino, Shigefumi) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第719号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0719

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0719

学生氏名　牧野成史　主査　矢作恒雄
副査　小林規威
所属ゼミナール　矢作恒雄研　嶋口充輝

国際化時代の日本企業の成長戦略

本研究は、企業の成長戦略と収益性との関係を調べることを目的としている。本研究では、経営資源を、経営資産と経営者のコントロール能力の関数として考え、企業の成長を「経営資源の拡大のプロセス」として定義した。つまり、企業の成長には、経営資産の拡大と、それを調整できるだけの経営者のコントロール能力の対応が必要なのである。本研究では、成長戦略の方向を、製品多角化とグローバル化の二つの軸で考え、それぞれの戦略を、企業活動の多様化を示す「多角化成長パターン」と、企業活動間の「経営資源の関連性」に分解・統合して、新しい企業成長のコンセプトを構築した。企業の成長の目的が、収益の増加であることを前提として考えると、このようにして定義された企業成長の概念と収益性の間には、何らかの関係があるものと考えることができる。本研究では、上場企業95社について、企業成長と収益性との関係を実証分析によって検証した。その結果から、企業にはその企業に望ましい、成長戦略のパターンが存在すること、また、成長戦略を構成する企業活動の多様化・関連性または、成長の方向（製品多角化・グローバル化）の程度および組合せの仕方によって収益性へのインパクトが異なることが検証された。